

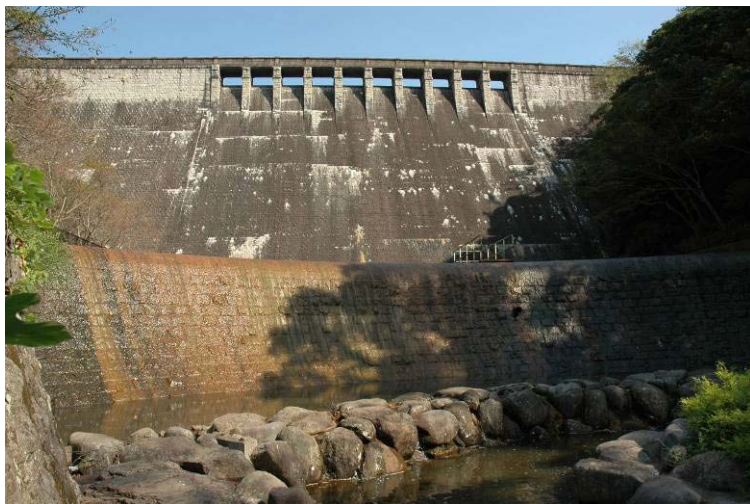
近代化遺産 「ダム」めぐり

発行日：平成 22 年 11 月 7 日

発行所：長崎市魚の町 5-1

長崎市文化財課

TEL 095-829-1193



登録有形文化財 小ヶ倉ダム（平成 22 年 4 月 28 日登録）

小ヶ倉ダムは、大正 15 年（1926）年に完成したコンクリート造のダムで、現在もダムとして現役であり、市街南部に配水が行われています。現在、ダムの周辺は、市民の憩いの空間として整備が行われ、親しまれています。

小ヶ倉ダムは、大正時代において西日本最大級の都市であった長崎にふさわしいモダンな水道施設であり、建設当時に架けられた管理橋と併せて、国の登録有形文化財として登録されています。



登録有形文化財 小ヶ倉ダム管理橋

日 時 平成 22 年 11 月 7 日（日） 13:00 ～ 16:30

コース 諏訪神社境内(集合) ～ 五釐金碑（諏訪神社境内） ～ 西山ダム ～
本河内高部ダム ～ 本河内低部ダム ～ 小ヶ倉ダム ～ 長崎駅（解散）

主 催 長崎市文化財課

講 師 長崎大学工学部教授 岡林 隆敏氏

五厘金碑



同碑部分

明治 25 年（1892）建立されたもので、題字は初代長崎市長北原雅長。五厘金は、江戸時代、長崎の貿易商人等が利益の 1000 分の 5 を積み立てたもので、公共の目的に支出されていましたが、本河内に水源地を建設する際、その全残額 6 万 640 円を支出、ここに五厘金は解散しました。

本河内高部ダム

開国後、外国との交流が頻繁になると、度重なるコレラの大流行により、居留地を中心に近代上水道建設の機運が高まりました。横浜では、明治 18 年（1885）に水道事業に着工し、明治 20 年（1887）に完成させました。次いで函館では明治 21 年（1888）に着工し、明治 22 年（1889）に完成させました。長崎には江戸期の水道である「倉田水樋」がありましたが、明治 19 年（1886）の全国で 10 万人を超すコレラの大流行により、長崎県令日下義雄は、長崎区長金井俊行と協議して、近代上水道を敷設することを決めました。わが国 3 番目の近代水道であり、わが国最初的水道ダムです。その建設には工事費が 30 万円と莫大であったため猛烈な反対運動が起こりましたが（当時の長崎区の年間総予算は約 4 万円）、上水道の必要性が認識され、本河内高部貯水池は、明治 22 年（1889）に着手し、明治 24 年（1891）完成しました。この 30 万円の内、11 万円は国庫補助や五厘金などから賄い、残りの 19 万円は地方債を募集しました（わが国最初の地方債）。このダムは、技術史的価値からもデザインの価値からも秀逸なものであり、長崎市における明治期の構造物の中で、最も優れた構造物の一つです。



本河内高部ダム

ダムの外斜面は降雨による土砂の流出を防ぐために芝を敷いています。



本河内高部貯水池内石橋

一の瀬川の上流、妙相寺川には、自然石で築いたアーチ石橋が数多く見られました。これはその一つで、明治 22 年に造成された水源地にそのまま水没し、現在まで遺ったものです。昭和 53 年 12 月 20 日、市指定有形文化財に指定されています。



本河内高部
配水池内部

本河内低部ダム・西山ダム



本河内低部ダム

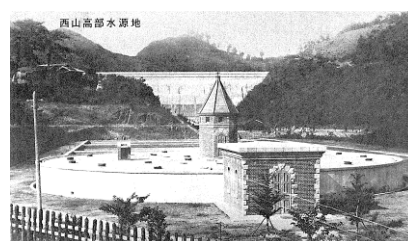


本河内低部ダムの越流部分



西山ダム

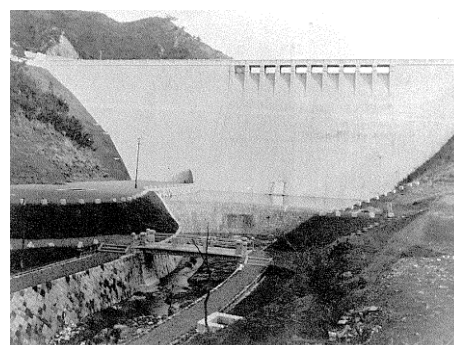
長崎市の近代水道の創設は、明治 24 年（1891）に本河内高部ダムが建設されたことから始まります。しかし、明治 27 年には降雨が少なく、この年にはもう給水制限を行わざるを得ない状況になりました。また、明治 22 年（1889）の市政施行時に 54,502 人であった人口は、市域の拡張により、明治 31 年（1898）には、113,307 人に増加し、このため、明治 32 年（1899）には、断水という事態に陥りました。そこで第 1 次水道拡張事業が計画されました。この計画は本河内高部ダム下流に本河内低部ダムを、中島川の支流の西山川に、西山ダムを建設するものです。いずれも重力式コンクリートダムです。これらのダムは、わが国 2 番目と 3 番目のコンクリートダムです。明治 34 年（1901）着工し、本河内低部ダムは明治 36 年（1903）に、西山ダムは軟弱な地盤のために工事が手間取り、翌明治 37 年（1904）に完成しました。このようなダム建設を通して、明治中期の技術革新の軌跡を見ることができます。



完成当時の西山
高部浄水場

小ヶ倉ダム

明治 31 年（1898）第 1 次市域拡張において 113,307 人であった人口は、大正 9 年（1920）第 2 次市域拡張において約 2 倍の 232,912 人になりました。大正 6 年（1917）頃になると、人口の増加と干ばつにより、給水制限や全市断水の事態が発生するようになりました。そこで、長崎市は新たな水道増設の調査を行い、第 2 次水道拡張計画として小ヶ倉に水源を建設することを決定しました。大正 9 年（1920）工事に着工し、大正 11 年（1923）、小ヶ倉と出雲町間の導水トンネルが開通しました。小ヶ倉ダムと水道施設の建設は、明治 24 年（1891）わが国最初の水道ダムを建設した長崎市における上水道技術の到達点でありました。花崗岩の石張りされたダムは、重厚で美しく、周囲の景観と調和し、都市を支えてきた歴史の重さを感じさせます。



完成当時の小ヶ倉ダム

■近代化遺産とは

幕末から第二次世界大戦期までの間に、近代的手法によって建設され、我が国の近代化に貢献した産業・交通・土木に関する遺産です。普段何気なく利用している近代の建築物や橋梁、公共施設、地場産業の発展の礎となった工場等、我々の生活に身近な存在であり、また、近年は、観光をはじめとする地域活性化の資源としても、急速に社会的関心を集めています。



近代化遺産には、単なる過去の遺産だけではなく、現役で使われ続けているものもあります。

出島橋（写真左）

現在供用中の最も古い道路橋。近代の形式を残し、デザインの的にも優れた道路橋です。

■九州・山口の近代化産業遺産群

「九州・山口の近代化産業遺産群」は、幕末から明治にかけて日本の近代化を担った産業遺産で構成され、世界遺産暫定一覧表に記載されています。



小菅修船場跡（国指定史跡）

北溪井坑跡（市指定史跡）

旧グラバー住宅
（国指定重要文化財）

端島炭鉱

- | | |
|---------|---|
| 小菅修船場跡 | わが国現存最古の洋式近代的ドックで、船を引き揚げる滑り台がソロバン状に見えたため、通称ソロバンドックの名で親しまれています。 |
| 北溪井坑跡 | 明治2年（1869）、高島に日本最初の蒸気機関による立坑が開坑されました。わが国における初期の近代的炭坑施設として価値が高いものです。 |
| 旧グラバー住宅 | 木造洋館としては日本最古の遺構。グラバーは、幕末から明治にかけて造船・炭坑・鉄道などの分野で日本の近代文明の進展に尽力しました。 |
| 端島炭鉱 | 端島は、良質の製鉄用原料炭を産出する海底炭坑の島として、わが国の近代工業を支えてきた炭鉱でした。高層アパートが島内に林立し、軍艦の「土佐」に似ていることから「軍艦島」として知られるようになりました。 |

■近代化遺産の日

近代化遺産の所在する地方公共団体を中心とした全国組織である「全国近代化遺産活用連絡協議会」は、わが国の産業・交通・土木の近代化を推進する原動力となった工部省が、明治3年10月20日に設立されたのを記念して、10月20日を「近代化遺産の日」と定めています。